

ユーロ

ル・ボラン車種別徹底ガイド⑬

立派ベストバイ⑬

ホットハッチ

PEUGEOT & CITROËN

EURO HOT-HATCH

VOL.2



完全詳報 プジョー206



フランス国内ラリー選手権を席巻するの
シトロエン・クサラ
キットカーに迫る!

ヨーロッパ現地試乗

ルノー・クリオⅡ / フィアット・セイチェント

Let's Enjoy Racing!
盛り上がってきたゾ プジョー205カップ
プジョー205大特集
日本仕様変遷史 / メンテナンス・ツーリング
スタッフが足で集めた
レアモノ・プレゼント大放送!!



ベーシックな戦い＝パンダカップは、同一条件で争われるCクラスが本旨だという。しかし、各ショップが様々なアプローチを施しパンダの限界を引き出そうとするFクラスも、FIREユニットを搭載したクルマの多いイタリアン・ホッチハッチのオーナーには、見逃せないイベントだ。



▲燃料噴射システムにマルチポイントインジェクターを得て、エンジンのポテンシャルがアップしたビアルベロ・マルティニ・パンダ。ボディのカラーリングや、細かなモディファイはランチア好きの鳥羽さん自らの発案。見れば見るほど手の込んだ作業を行っている。



Enjoy Racing!
パンダ編

マルティニカラーをまとった パンダカップカーは 燃料噴射システムに注目！

Complete by BIALBERO

取材協力＝ビアルベロ ☎054-277-0578 リポート＝植木和哉 フォト＝赤松孝／松井建樹

**移植されたマルチポイント
異色のマルティニ・パンダ**

イタリアン・ベーシックカーの戦い＝パンダカップは、改造できる範囲の少ないCクラスと、エンジン内部以外なら改造が認められたFクラスの2つに分けられる。

ここで紹介するパンダは、そのFクラスに今年からエントリーを始めた静岡のビアルベロの製作したマルティニ・パンダ。しかし、誰でも簡単にエントリー可能なCクラスとは異なり、ショップワークスの戦いといった趣の強いFクラスで勝利するためには、できる限りのモディファイが必要であり、各エントリー選手もレギュレーションの中で色々なアプローチを試みている。そんな激戦のクラスへ打って出るためにビアルベロでも実に様々なモディファイを施している。

内容は、まずボディの内張りをすべて削がし、サイド及びリアのウィンドーガラスをアクリルに変更。軽量化された室内にはボディ剛性の向上にもつながる7ポイント式ローレルケージを装着。サスペンションはフロント／リアともにビルシュタイン製ショックナイバツハ製スプリングというパンダカップ公認のものを使用している。しかし、強豪ひしめくFクラスでは、それらに加えてプラスαのポテンシャルアップが必要。そこでビアルベロでは、エンジンのポテンシャルアップを図った。

もともとパンダに搭載されるFIREユニットと呼ばれるファイアット製エンジンは、プリントやチンクエチエントなどの様々なモデルと共用。そのため、パンダよりもポテンシャルの高いエンジンも多く存在する。そこから吸排気系を移植すれば、エンジン性能は簡単にアップするという算段だ。

そこで白羽の矢を立てたのは、FIREユニットの頂点に位置するチンクエチエントのグループAキット。インジェクターを各気筒ごとに持ったマルチポイントタイプのそれは、4つの燃焼室に対し1本のイン

ジェクターで燃料を供給するパンダに較べ、燃焼効率が確実に向上。おのずとエンジンのパワーも上がる、というものだ。

しかし、これはそう簡単には運ばないのが世の常。インジェクターを変更し、燃料の吐出量が変わった場合、燃料の供給をコントロールするコンピュータの書き換えを行わねばならない。さらに、サーキット走行を主眼にしたマルティニ・パンダは、点火タイミングも変更したい。そこで、これらを司るコンピュータを変更しなければならぬ。最も簡単な方法は、チンクエチエントのグループA用を移植することだが、細かな仕様やクルマを使うフィールドが異なるため、いずれ不具合が出てくるのは確実。そのためイタリアから急遽、友人のコンピュータエンジニアを呼び寄せて、ROMの書き換えを行って完成したという次第。ビアルベロの鳥羽さんによれば、エンジン自体のポテンシャルは、かなり満足が行くレベルに仕上がったということだが、標準の足廻りを使用するためコーナーリング性能でやや他に劣っていることも事実。今後はサスペンションを中心としたポテンシャルアップが急務となっているという。

▶クラフトショップ「ドリーム」の代表鍋田さんとスタッフの人達。細かな作業を丹念に仕上げてくれる。



◀ビアルベロの鳥羽さんによるラフスケッチを元にコンピュータ入力が行われたマルティニカラー。



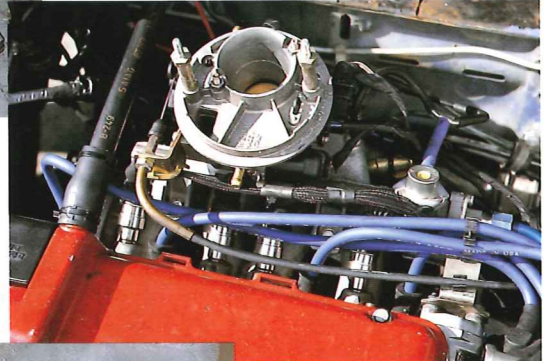
①ドライバー正面のインパネには、トロフェオ用として発売されたアバルトロゴの入ったタコメーターが追加されている。ステアリング&シフトノブは、モモコルセのマルチニラインナップ。カーボンペダルもモモコルセを使用する。②フロントストラット部分に貫通するロールケージは、バンダカップ公認の4ポイントに手を加え、7ポイント式としている。③内張りのすべて剝された室内には、スバルコ製バケットシートが1基だけ。4点式シートベルトはサベルト製。④リアの足廻りはビルシュタイン+アイバツハ。⑤フロントはバンダカップ公認のエルシュポルト+アイバツハだ。



▶ホイールはホルベット。タイヤはブリジストン・ポテンザRE520(7.5/60R13)というスタイヤを装着



▲エンジンは最終型の1100ccを搭載。内部の変更はレギュレーションによって認められないため吸排気系を中心に手が加えられている。



上:バンダのエンジンマネージメントを司るコンピュータはROMの書き換えがほどこされた。中:各燃焼室に対しそれぞれの燃料噴射装置を持つグループAキットだがインテークは1つ。下:キット販売が行われているため比較的手に入れ易いチンクエ・グループA用キット。



▲エキゾーストマニホールドはスーパープリント製4インチタイプ。チタンサイレンサーはビアルベロ製を装着している。



▶第1戦のために鳥羽さんは急遽イタリアからコンピュータエンジニアを呼んでしまった。写真左はドライバーの村松さん。

	Bucket seat Rev (FIA) ¥54,820 Evo (FIA) ¥56,620 Pro2000 (FIA) ¥58,420	
	Race wear Prima ¥98,020 Sparco2 ¥74,620 Sprint2 ¥54,820	
	Race Boots Elite ¥24,620 Racing ¥22,820	
Gloves Super pro ¥19,220 Grand prix ¥19,220		

ricambi

Produced by Car's Cafe

気楽で楽しいイタリアンバー

おなじみBar & Cafeのリカンビが今回レーシンググッズ「スバルコ」に注目！リーズナブルに皆様に提供できるようになりました。

「コーヒーとカンパリとスバルコ」
 ちょっとミスマッチの様ですが、リカンビではそれが自然です。



見て、着て、分割払いOK
 リカンビ: 〒665-0822 宝塚市安倉中5-2-4
 TEL・FAX.0797-85-7575 ■営業時間/10:00~23:00 ■水曜定休日

中津浜線
 至宝塚
 マストルト
 日産
 宝塚インター
 R176
 中国道
 回廊すし